

第10期 ● 中間報告書

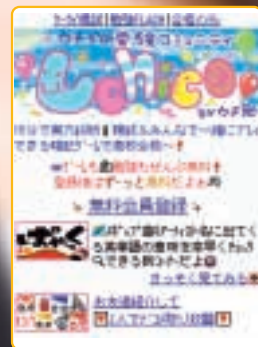
2008年4月1日から2008年9月30日まで

証券コード:3745

ネットワークを通じて、
世の中に「わっ!!」を提供する



予想ネットモバイル・uchico
新しいサービスを開始しました!



ネットワークを通じて、世の中に“わっ!!”を提供する

財務ハイライト



アミューズメントモバイル事業

モバイル領域において、パチスロ・パチンコゲームや各種コンテンツの配信サービスを展開しております。



アミューズメントオンライン事業

PC領域において、オンラインのパチスロ・パチンコゲームを中心としたサービスを展開しております。



ポイントメディア事業

インターネット上でユーザーが各種サービスを利用することでポイントを獲得し増やすことのできるポイントサービスを運営しております。



モバイルコンテンツ事業

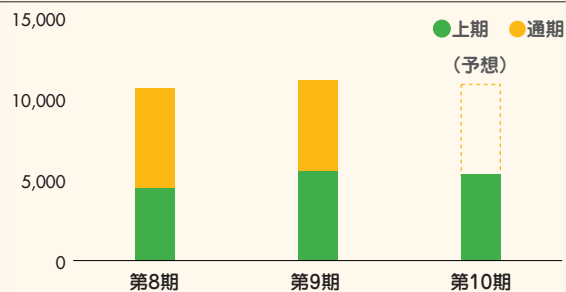
主にモバイル領域において、着メロ等の音楽サービスやメール関連サービスを展開しております。



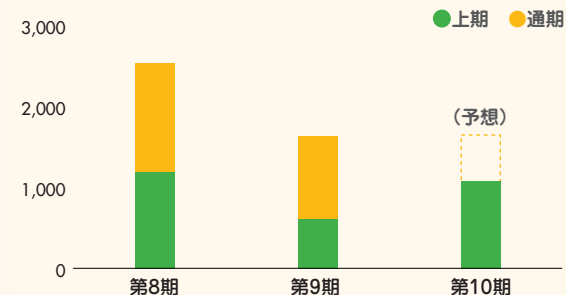
ソリューション事業

各種コンテンツやWeb関連システム等の企画から開発・運営まで一貫したサービスを提供しております。

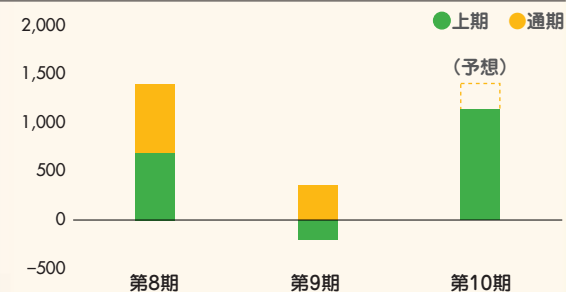
● 売上高 (単位:百万円)



● 経常利益 (単位:百万円)



● 純利益 (単位:百万円)



“第2の創業期” 永続的に成長していくために、 コア事業（アミューズメント事業）の強化と 新しいサービスの創出に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2000年の創業以来当社は、「ネットワークを通じて、世の中に“わっ!!”を提供する」をコーポレートスローガンとし、「喜び」「楽しみ」「感動」を感じていただける様々なサービスを提供してまいりました。

当期（2008年4月1日から2009年3月31日まで）におきましては、「第10期」という節目を迎えるにあたり、「もう一度、創業期の原点に戻り、新しいことにチャレンジしていこう」という思いで、「第2の創業期」と位置づけました。具体的には、「コア事業」を強化し、収益を重視した、より一層「筋肉質の会社」に変え、その上で攻めて行くことを方針といたしました。

そういった中、当社のコア事業（アミューズメント事業）につきましては、「第2の柱」である、アミューズメントオンライン事業の「777タウンットネット（PC）」が、国内トップクラスのオンラインゲームサイトに成長し、「第1の柱」であるアミューズメントモバイル事業の「サミー777タウン」の売上高を初めて上回りました。また、新しいことへのチャレンジとして、「予想ネットmobile」、「au one おこづかい」および「uchico」といった新サービスを創出いたしました。さらに、業務改善による原価、販管費の削減に注力してまいりました。その結果、連結売上高53億50百万円（前年同期比3.4%減）、連結経常利益10億77百万円（前年同期比76.9%増）、連結四半期純利益11億39百万円（前年同期は四半期純損失2億3百万円）となりました。

今後につきましては、引き続き“コア事業（アミューズメント事業）の更なる強化”と、“新しいサービスの立ち上げ”、“研究開発”を積極的に展開してまいります。

通期事業計画につきましては、連結売上高108億83百万円（前期比2.4%減）、連結経常利益16億47百万円（前期比1.4%増）、連結当期純利益14億6百万円（前期比291.9%増）を見込んでおります。なお、配当につきましては、1株につき3,000円の期末配当を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 大野政昭

サミーネットワークスの今後を担う
新しいサービスにフォーカスし、
その最新情報をお届けいたします。

ポイントメディア
事業部

「au one おこづかい」「予想ネットmobile」

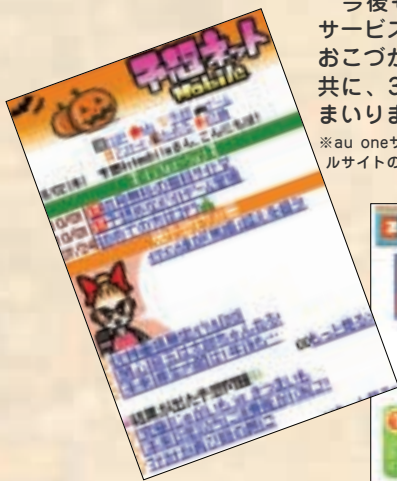
従来「予想ネット」はPC領域のみで展開をしてまいりましたが、2008年7月にdocomo公式初のポイントサイト「予想ネットmobile」として当社の強みである「モバイル」領域での展開を始めました。

また、2008年10月にKDDIグループと協業で「au one おこづかい」をサービス開始いたしました。「au one おこづかい」は、ゲームや予想クイズの参加などを通じて、貯めたり、増やしたりしたポイントを、じぶん銀行をはじめとする一般金融機関へのキャッシュバックやEdyなどの電子マネー、ギフト券やカタログギフトに交換することができます。

つまり、「au one おこづかい」は、ゲームや予想クイズに参加するだけで、「おこづかいを稼ぐ」＝「ケータイ代を稼ぐ」ことができるサイトと言えます。「無料で遊べる上に、おこづかい稼ぎもできる」という魅力に加え、au oneサービス※であることを活かし、他のau one企画や各種企画、事業と連携をはかることでauユーザーに大きな浸透をはかり、利用者的大幅な拡大をさせていきたいと考えております。

今後も「au」とのさまざまなサービスの連携を行い、「au one おこづかい」の充実に注力すると共に、3キャリア対応化も進めてまいります。

※au oneサービスとは、「au」のモバイルポータルサイトのことです。



ケータイ代を稼ごう!

クイズやゲームで遊び、
ケータイでおこづかいをためるサイト

おこづかいGET!



交換

ケータイ代を
ケータイで稼ぐ!!

交換

ケータイ代を
ケータイで稼ぐ!!

ポイントなどをためて…

ふ や す

ポイントをふやして…



アンケート



応募申込



ショッピング

etc



ゲーム



クイズ

etc

モバイルコンテンツ
事業部

ケータイPOST

ケータイPOSTは郵便事業の民営化を受け、日本郵便とKDDI、サミーネットワークスの3社体制で2007年11月にスタートしたケータイから年賀状などのハガキを作成、送付するサービスです。

当社がこれまでの携帯コンテンツ事業で蓄えたエンターテインメント性と、日本郵便の協力および、ケータイPOST専用に関係されたオンデマンドプリンティングにより、初めて実現したサービスです。ハガキを買に行ったり、プリンターで印刷したりすることなく、ケータイの中に溜まっている写真、いつも使っているケータイの絵文字を使って、デコメのような感覚でハガキを簡単にデザインする事ができます。

デコメやメールによって若年層離れが起こっている年賀状市場40億枚に対して、日本郵便とともに「ケータイからハガキを送る」という文化を創り、新しいマーケットの創出を目指しています。

2008年11月より、ドコモ、ソフトバンクモバイルでも、サービス提供を開始しました。



EDT事業部

uchico



事業の第4、第5の柱となるべく生まれた事業が中学生をターゲットとしたEDT(エデュテインメント)*事業であります。EDT事業は2008年2月に中学生向けサービスとして3キャリア公式サイト「うちのベンキョー委員会」をスタートさせました。

その「うちのベンキョー委員会」の関連サイトとして2008年6月ケータイ初心者に対してネットマナーや注意点を啓蒙する無料サイト「こころ部」を、2008年8月に中学生向けコミュニティ無料サイト「uchico」をスタートさせました。その「uchico」のコミュニティサイトとしての充実を図るために、2008年9月にプロスポーツ選手も取り入れているメンタル理論を用いたメンタルトレーニングサービス「合格!メントレ」をスタートさせました。今後もコミュニティの充実を図り、中学生における「uchico」ブランドの確立を目指してまいります。

※ EDTとは、教育(エデュケーション)と娯楽(エンターテインメント)の造語です。



■ 全般の概況

当第2四半期におけるわが国経済は、原油価格の高騰に伴う物価の上昇に加え、サブプライムローン問題を契機とした米国の金融不安が顕在化し、世界経済に減速の兆候が明確に見られ、国内企業についても業績の先行き不透明感が一層増してきております。

当社グループを取り巻く環境としましては、日本国内におけるFTTH（光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス）、DSL（デジタル加入者線）等の主要なブロードバンド契約数が2008年6月末で2,934万件（前期末比2.1%増）と堅調に推移しております。（※1）

また、日本国内における携帯電話等の加入者数は、2008年9月末時点で10,942万件（前期末比1.9%増）であり、そのうちインターネット接続が可能な携帯電話等の加入者数は10,483万件（前期末比2.1%増）で携帯電話等の95.8%を占めております。（※2）

PC・携帯電話ともにインターネットの普及率は微増ながらも堅調に推移し、特に携帯電話に関しましては、以前にも増して、より大容量・高速データ通信が可能な端末の標準化および普及

により、大容量コンテンツ配信の環境が整いつつあります。

このような状況のもと当社グループでは、引き続き携帯電話およびPC向けのパチスロ・パチンコゲームを中心としたコア事業の強化・拡大を推し進めるとともに、新規サービスの立ち上げにおいても積極的に展開してまいりました。

また、更なる収益性の強化を目的とし、筋肉質の体質になるべくコスト構造の見直しおよび管理を徹底いたしました。

以上の結果、当第2四半期における連結業績は、売上高53億50百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益10億51百万円（前年同期比63.0%増）、経常利益10億77百万円（前年同期比76.9%増）、四半期純利益11億39百万円（前年同期は四半期純損失2億3百万円）となりました。

（※1）総務省調べ

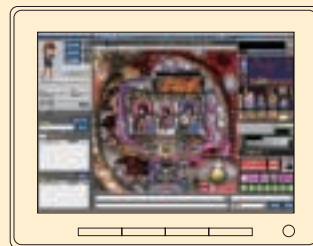
（※2）社団法人電気通信事業者協会調べ

■ セグメント別の概況

コンテンツ事業

● アミューズメントオンライン事業

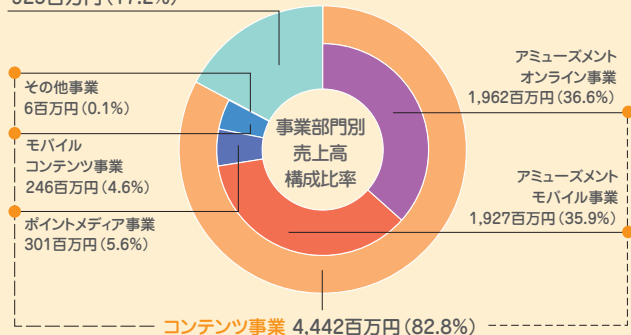
PC向けパチスロ・パチンコオンラインゲーム「777タウンドットネット」において、ゲームの安定供給はもちろんのこと、2008年9月に有カパチンコ機「ばちんこCR北斗の拳」の先行配信を行うとともに、



コミュニティ機能の充実や初心者向け機能を整備するなどの施策を行い、サービスの充実化を図るとともに、各種イベントやキャンペーン等を積極的に投入したことで順調に推移いたしました。

この結果、アミューズメントオンライン事業の売上高は19億62百万円（前年同期比50.0%増）となりました。

ソリューション事業
925百万円 (17.2%)

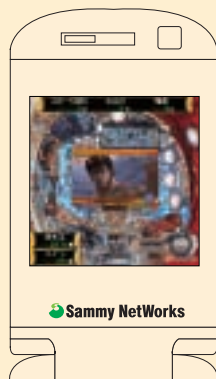


※ 円グラフの数値は連結消去前です。

● アミューズメントモバイル事業

携帯電話向けパチスロ・パチンコゲームサイト「サミー777タウン」においては、パチスロ参加人口が減少傾向にある中、当サービスにおいても前期より続いていた会員数の減少に歯止めがかからず苦戦いたしましたが、ユーザーにより楽しくもらえるサービスとすべく、コミュニティ機能の追加等の全面リニューアルの実施および2008年9月に有力パチンコ機「ばちんこCR北斗の拳」の先行配信を実施した結果、会員数の減少に一応の歯止めがかかった状況となりました。

この結果、アミューズメントモバイル事業の売上高は19億27百万円（前年同期比20.0%減）となりました。



● ポイントメディア事業

インターネット上でショッピングや資料請求を行うことで各種ポイントを貯めたり、予想問題を通じてポイントを増やすことができるサービス「予想ネット」において、2008年7月にdocomoのiモード公式サイトにて、公式初のポイントサービスとして「予想ネットmobile」を開始いたしました。また、PC版においてはYahoo! JAPANとのIDの連携、他社とのポイントの連携を強化することで、ユーザー満足度の向上に努めてまいりました。

この結果、ポイントメディア事業の売上高は3億1百万円（前年同期比12.0%減）となりました。

● モバイルコンテンツ事業

携帯電話1つでハガキの作成から投函までを行えるサービス「EZケータイPOST」において、母の日や父の日にメッセージカ



ードを添えてのプレゼント送付や食品メーカーや人気映画とタイアップし、暑中見舞いやポストカードを送付するキャンペーンを実施し、利用者数の増加とサービスの認知度の向上に努めてまいりました。

また、着信メロディーサービス「プラチナメロディー」を中心とする携帯電話向けサービスにつきましては、着信メロディー市場における飽和傾向の影響を受け、会員数は減少傾向で推移いたしましたが、積極的なコスト構造の見直しなどの施策により、収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、モバイルコンテンツ事業の売上高は2億46百万円（前年同期比35.3%減）となりました



● 新規事業

エデュテイメント(※3)分野において、2008年2月にサービスを開始させた携帯電話向けのサービス「ウチらのペンキョー委員会」の関連サービスとして、中学生向けの携帯電話向け無料サービス「uchico」を2008年8月にサービスを開始させました。

これらの結果、コンテンツ事業の売上高としましては、44億42百万円（前年同期比4.5%減）、営業利益10億93百万円（前年同期比52.8%増）となりました。

(※3) 教育(エデュケーション)と娯楽(エンターテインメント)の造語

ソリューション事業

システム開発案件の受注の確保を推進するとともに、GPSゴルフカート運行システム「Trust Navi」の営業活動に努めてまいりました。

この結果、ソリューション事業の売上高は9億25百万円（前年同期比9.4%増）、営業損失42百万円（前年同期は営業損失56百万円）となりました。

■ 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当第2四半期末 2008年9月30日現在	前期末(ご参考) 2008年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	7,627,467	6,208,680
現金及び預金	5,047,781	3,188,004
売掛金	2,172,489	2,035,172
商品	19,070	5,081
繰延税金資産	79,151	649
その他	308,975	979,772
固定資産	3,089,137	3,256,283
有形固定資産	141,573	144,849
無形固定資産	1,873,165	2,008,268
投資その他の資産	1,074,398	1,103,165
資産合計	10,716,604	9,464,964
●負債の部		
流動負債	1,508,193	1,364,717
買掛金	868,009	841,592
未払金	227,850	207,511
未払法人税等	26,774	2,392
賞与引当金	96,494	83,480
役員賞与引当金	25,000	—
その他	264,063	229,740
固定負債	160,609	86,100
負債合計	1,668,802	1,450,818
●純資産の部		
株主資本	9,035,074	8,031,457
資本金	2,330,275	2,330,275
資本剰余金	2,974,810	2,974,810
利益剰余金	4,483,091	3,479,474
自己株式	△753,103	△753,103
評価・換算差額等	△1	△20,739
少数株主持分	12,728	3,428
純資産合計	9,047,802	8,014,146
負債純資産合計	10,716,604	9,464,964

🎯 Check Point

資産合計は、前連結会計年度末に比べ12億51百万円増加し、107億16百万円となりました。その主な増減は、現金及び預金の増加18億59百万円、未収還付法人税等の減少5億46百万円、のれんの減少1億92百万円などがありました。

🎯 Check Point

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億17百万円増加し、16億68百万円となりました。その主な増減は、買掛金の増加26百万円、リース債務の増加65百万円などがありました。

🎯 Check Point

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ10億33百万円増加し、90億47百万円となり、自己資本比率は0.3ポイント減少し84.3%となりました。

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期(累計) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前中間期(ご参考) 2007年4月1日から 2007年9月30日まで
売上高	5,350,291	5,536,952
売上原価	2,799,619	2,886,010
売上総利益	2,550,672	2,650,941
販売費及び一般管理費	1,498,942	2,005,669
営業利益	1,051,729	645,271
営業外収益	39,117	5,864
営業外費用	13,058	41,889
経常利益	1,077,788	609,245
特別利益	840	5,174
特別損失	49,013	1,163,011
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	1,029,615	△548,590
法人税、住民税及び事業税	3,527	454,514
法人税等調整額	△123,851	△752,438
少数株主利益又は少数株主損失(△)	9,971	△47,355
四半期純利益又は中間純損失(△)	1,139,967	△203,311

Check Point

当第2四半期連結累計期間における連結売上高は、前年同期比3.4%減の53億50百万円となりました。前年同期比3.4%の減少要因は、海外事業の撤退による影響(4億68百万円)があげられます。

Check Point

当第2四半期連結累計期間における連結経常利益は、前年同期比76.9%増の10億77百万円となりました。前年同期比76.9%の増加要因は、海外事業の撤退による影響(1億96百万円)があげられます。

Check Point

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ8億59百万円増加し、40億47百万円となりました。
なお、投資キャッシュ・フローには定期預金の預入による10億円が含まれております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期(累計) 2008年4月1日から 2008年9月30日まで	前中間期(ご参考) 2007年4月1日から 2007年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,216,513	510,513
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,240,755	△329,251
財務活動によるキャッシュ・フロー	△115,105	△302,505
現金及び現金同等物に係る換算差額	△291	4,991
現金及び現金同等物の増減額	860,361	△116,251
現金及び現金同等物の期首残高	3,188,004	3,476,126
非連結子会社の連結化に伴う減少額	△584	—
現金及び現金同等物の四半期末(中間期末)残高	4,047,781	3,359,875

財務諸表の作成にあたって

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

株式情報

●株式の状況

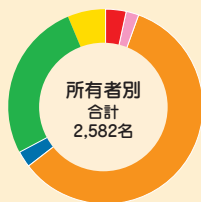
発行可能株式総数	120,000株
発行済株式総数	45,306株
株主数	2,582名

●大株主

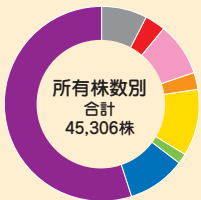
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
セガサミーホールディングス株式会社	24,804	54.75
ユービーエスエージーロンドンアカウントアイビーピー セグリティッドクライアントアカウント	1,775	3.92
大野 政昭	1,372	3.03
株式会社サミーネットワークス	1,222	2.70
野村信託銀行株式会社(投信口)	806	1.78
倉垣 英男	432	0.95
株式会社ドコモ・ドットコム	420	0.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	373	0.82
佐藤 信邦	360	0.79
ゴールドマンサックスインターナショナル	309	0.68

●株式分布状況

- 金融機関 3.5%
- 金融商品取引業者 2.1%
- その他の法人 58.9%
- 自己名義株式 2.7%
- 個人・その他 26.5%
- 外国人等 6.3%



- 1株以上 7.6%
- 5株以上 3.5%
- 10株以上 8.9%
- 50株以上 2.8%
- 100株以上 11.1%
- 500株以上 1.8%
- 1,000株以上 9.6%
- 10,000株以上 54.7%



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金	3月31日
受領株主確定日	3月31日
	中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場取引所	東京証券取引所
公告掲載URL	http://www.sammy-net.jp/announcement.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意) 株主名簿管理人の「取次所」の定めについて

株券電子化後、株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社経由で行っていただくこととなるため、株主名簿管理人の「取次所」は、株券電子化の実施時をもって廃止いたします。なお、未受領の配当金のお支払いにつきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社の全国各支店でお支払いいたします。

お知らせ

株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所等の変更届、配当金振込指定書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。なお、株券電子化後は、特別口座に記録された株式についてのお手続き用紙のみとなりますので、ご注意ください。

☎ 0120-244-479 (通話料無料)
(三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部)

インターネットアドレス
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

■平成21年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせ

① 特別口座について

① 特別口座への口座残高の記帳

株券保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます(平成21年1月26日(月)に記録される予定です)。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、平成21年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

② 特別口座に記録された株式に関する手続き

特別口座に記録された株式に関する手続き(株主様の口座への振替請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等)につきましては、株券電子化後、下記口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)の連絡先にお問合せください。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国各支店でお取次ぎいたします。

③ 特別口座の口座管理機関および連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

④ 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主様の口座への振替請求ならびに各種お届出につきましては、平成21年1月26日(月)以降にお手続きが可能となりますので、ご注意ください。

② 株主様のご住所およびお名前のご登録について

株主様のご住所およびお名前の文字に、振替機関(証券保管振替機構)で指定されていない漢字等が含まれている場合には、その全部または一部を振替機関が指定した文字に置き換えのうえ、株主名簿にご登録いたします。この場合、株主様にお送りする通知物の宛名は、振替機関が指定した文字となりますのでご了承ください。

ご参考

株券電子化に関する詳細につきましては、証券決済制度改革推進センターのホームページに掲載されたQ&A
(<http://www.kessaicenter.com/kaikaku/kabuken10aa.pdf>)
等をご参照ください。

また、株券電子化に関するご質問・ご相談は、
「株券電子化」なんでも相談窓口(「株券電子化コールセンター※」)
TEL 0120-77-0915(通話料無料。平日・土曜/9:00~17:00)
までお問合せください。

※株券電子化コールセンターは、(株)証券保管振替機構、日本証券業協会、(株)東京証券取引所が共同で運営する株券電子化についての相談窓口です。

会社概要

(2008年9月30日現在)

- 会社名 株式会社サミーネットワークス
Sammy NetWorks Co., Ltd.
- 本社所在地 〒107-0062
東京都港区南青山3丁目1番31号
NBF南青山ビル3階
- 設立 2000年3月1日
- 資本金 23億300万円
- 事業内容 携帯電話、PCへの音楽関連コンテンツ、ゲーム関連コンテンツの配信サービス、インターネット広告事業、Eコマースおよびシステム開発事業
- 監査法人 あずさ監査法人
- 従業員数 連結177名、単体112名

役員

(2008年9月30日現在)

取締役会長	里見 治	執行役員	倉垣 英男
代表取締役社長	大野 政昭	執行役員	佐藤 慎吾
専務取締役	崎野 清文	執行役員	小口 剛
専務取締役	石倉 博	執行役員	三井 友樹
取締役	大山 太郎		
取締役	西田 浩		
常勤監査役	嘉指 富雄		
監査役	榎本 峰夫		
監査役	家田 和忠		

主な連結子会社

(2008年9月30日現在)

株式会社リアラス

株式会社メディア・トラスト

ホームページのご案内



サミーネットワークスに関する詳しい情報はインターネットでご覧いただけます。または、IRメールにて最新情報を配信しております。ぜひ、この機会にご登録ください。

● ホームページアドレス
<http://www.sammy-net.jp>

● IRメール配信
<http://www.sammy-net.jp/ir/mail/>

ばちんこCR北斗の拳
© 武論尊・原哲夫/NSP 1983, ©NSP 2007
版權許諾証GT-706. © Sammy

ばちんこCR北斗の拳
© 武論尊・原哲夫/NSP 1983, ©NSP 2007
版權許諾証GS-406. © Sammy

今後の見通しに関する注意事項

本誌の記載内容のうち、当社の将来に関する見直しおよび計画などの歴史的事実でないものについては将来予測であり、現在入手可能な情報から得られた会社の判断に基づいています。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素が含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見直しとは大きく異なる可能性があります。

※ 本冊子は環境に配慮し、再生紙と大豆油インクを使用しています。